〈資料〉

幼稚園教員養成課程「身体表現」の模擬授業における学生の意識変化

菅家　沙由梨[1)]、西田　希[2)]、浅井　泰詞[3)]、雪吹　誠[4)]

([1)]短期大学部歯科衛生学科、[2)]人間学部子ども学科、[3)]武蔵野美術大学身体運動文化研究室、[4)]人間学部児童教育学科)

Changes in Students' Consciousness in the Mock Class of the Kindergarten Teacher Training Course "Body Expression"

Sayuri KANKE[1)], Nozomi NISHIDA[2)], Taishi ASAI[3)], Makoto IBUKI[4)]

([1)] Department of Dental Hygiene, Mejiro University College

[2)] Department of Child Studies, Faculty of Human Sciences

[3)] Department of Health, Sports and Physical Arts, Musashino Art University

[4)] Department of Childhood Education and Welfare, Faculty of Human Sciences)

本研究は、幼稚園教育要領領域「表現」の内容を理解させた上で模擬授業を実施することで、学生の幼児指導に対する意識がどのように変化するのかを模擬授業実施前後の自己評価から比較検討した。対象は東京都内私立大学に所属する幼稚園教員免許取得希望者である学生で、教職科目「幼稚園教育法（身体表現）」の受講者 99 名とし、幼児指導に関するアンケート調査を行った。調査の結果、「領域「表現」のねらい、内容の理解」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）の理解」、「指導への自信」について実施後の自己評価が有意に高い値を示した。このことから、模擬授業実施前に幼稚園教育要領の内容理解を深めることの重要性が明らかとなった。

キーワード : 幼稚園教員養成課程、幼稚園教育法、身体表現、模擬授業、意識変化、幼稚園教育要領

1．諸　言

「幼稚園教育要領」では、生きる力を育むことをねらいとして、指導領域の一つに「表現」を掲げている。この領域「表現」では、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする」ことを内容としている（文部科学省，2008）。その中でも身体表現においては、あそびや生活を通して子どもが感じたり考えたりしたことを、思いのまま自由にのびのびと身体の動きで表す内容となっており、幼児期に求められる表現活動の援助指導は、子どもたちがその後の人生の中でより豊かに自分自身を表現する力を育てることとなっている（永井，2011）。子どもと関わる時間が多い保育者にとって、あそびの質と量を豊かにし、実践的指導力を身につけることが求められており、あそびを通して豊かな体験ができるように意図的・計画的に環境を構成し、援助できることが必要となってくる（高橋ら，2015）。

それらを学ぶために、幼稚園教員養成校においては、教員養成課程の質的な充実を目指す授業科目として模擬授業の実践が行われている。模擬授業の実践は、学生のスキルアップをはかるとともに実習前に自分の取り組むべき課題に気付くきっかけを担っている（清，2013）。先行研究においても、模擬授

業を通しての学生の学びやその効果、さらに今後の課題について、数多くの報告がなされている（松山, 2010; 清, 2013; 阿部, 2016）。子どもたちの未来を見据えて援助していく保育者は、幼児指導における指導実践に関する知識に加え、幼児期に必要な表現活動に対する理解を充分に深めていかなければならない。そのためにも教員養成課程の学生においては、幼稚園教育要領領域「表現」の内容について、より一層理解が必要となってくる。

近年では「教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会」なども開催され、教職課程コアカリキュラムの内容が検討されてきている。教職課程コアカリキュラムは、教育職員免許法及び同施行規則に基づき全国すべての教職課程で共通的に修得すべき資質能力を示すものであり（文部科学省, 2017）、各大学のシラバス作成に当たっては、コアカリキュラムの全体目標、一般目標、到達目標の内容を修得できるように授業を設計することが求められている（上月, 2019）。教職課程コアカリキュラムの中には、保育内容の指導法に関する内容もあげられており、幼稚園教員養成課程においては、幼児期の健全な心と体を育てるために、これまでにも増して幼児期の身体表現の重要性を理解し、教職課程コアカリキュラムに準じた適切な指導ができる教員を育成することが求められている。

教職課程コアカリキュラムの目標の中には、「幼稚園教育要領に示された教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する」ことがあげられている（文部科学省 ,2017）。しかし、高橋ら（2015）によると、模擬授業実践を通しての具体的な問題点や改善点は、「展開方法」、「言葉かけ」、「時間」に関して課題意識が高いが、「最後のまとめ」、「あそびのねらい」に関しては課題意識が低いことが報告されており、「まとめ」や「ねらい」の理解については、学生の不足している指導スキル要因であることが考えられている。また、菅家ら（2018）によると、自身の授業に自信をもって指導できる学生を増やしていくためには、幼児指導の実践内容だけではなく、幼稚園教育要領に示された内容の理解度をあげていくことが重要であると報告されている。それらに加えて、新山ら（2014）は90分×15回の授業をどのように組み立てるのか、限られた保育者養成カリキュラムの中で「何をどのように教えるか」という内容と方法の精査を行う研究が必要であることを述べている。これらの報告から、学生が自信を持って指導を行っていくためにも、また、幼児指導で求められている指導内容にしていくためにも、幼稚園教育要領に示された内容の理解度をあげていくことが重要であり、授業内容の改善が必要であると言える。

さらに、先行研究によると、模擬授業の実践によって学生の幼稚園教育要領の理解度が高まることが報告されている（菅家ら, 2019）。これらのことから、模擬授業実施前に幼稚園教育要領領域「表現」の内容を学生に修得させ、幼児の発達や学びの過程を理解した上であそびの内容を考えていくことで、模擬授業の効果をさらに向上させる可能性が考えられる。

そこで本研究では、幼稚園教育法（身体表現）の授業において模擬授業実施前に幼稚園教育要領領域「表現」の内容を学生に理解させ、模擬授業実施前と実施後の自己評価から幼児指導に対する意識の差を比較検討し、今後の幼稚園教員養成のための基礎資料を得ることを目的とした。

2．方　法

(1)　調査対象および調査期間

東京都内私立大学に所属する幼稚園教員免許取得希望者である学生で、教職科目の「幼稚園教育法（身体表現）」を受講し、研究の同意が得られた99名を対象とした。調査は2019年6月から7月に実施した。模擬授業は1人1回ずつ行い、アンケート調査は全15回の授業回数のうち、模擬授業実施前の第9回目（6月）と実施後の第15回目（7月）に実施した。

(2)　調査内容・分析方法

研究者にて作成した自己記入式質問紙調査を実施し、模擬授業実施前後における身体表現に関する幼児指導への意識の変化を学生の自己評価から分析した。なお、本研究においては、初回授業時に幼稚園教育要領領域「表現」の内容について理解させた上で模擬授業を実施することで、学生の幼児指導に対する意識はどのように変化するのかを検討した。

意識調査においては、「幼稚園教育要領領域「表現」

のねらいや内容、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解度」や、「指導案作成」、「幼児指導」、「表現」に関する内容を質問項目として作成した。また、各質問項目において、その回答をした理由を自由記述にて回答を得た。さらに、模擬授業実施後において、幼児指導に対する意識調査の質問項目に加え「模擬授業を経験して良かったか」、「幼児指導に対して不安要素は残っているか」、「幼児指導についてもっと学んでいきたいか」などの内容も質問項目とした。

アンケート調査の回答は「そう思う」「まあまあ思う」「あまり思わない」「まったく思わない」の4件法にて評価してもらった。また、幼児指導に対する意識についての差の検討には、アンケートの回答を「そう思う」4点、「まあまあ思う」3点、「あまり思わない」2点、「まったく思わない」1点と点数化し、対応のあるt検定を用いて分析した。統計学的有意水準は5%未満とした。自由記述については、記述内容別に分類し、意見数の割合を算出した。

⑶ 倫理的配慮

調査は無記名で行い、調査実施時に、調査目的、利用方法、回答は強制でないことを学生に説明し、参加・不参加は自由であること、不参加であっても成績などへの影響はないことを説明した。なお、研究代表者がアンケート調査を行い、成績評価を行う科目担当者はアンケートの実施、分析には関与していないため、学生の成績評価への影響はない。また、得られたデータは個人が特定できないように処理され、公表する際にも個人が特定されないことも併せて説明した。その後、質問紙を配布し、研究に同意した者のみ、授業後、教室外に設置した回収箱に提出してもらった。

3．結　果

調査票は99部配布し、回収数は99部（回収率100%）であり、有効回答数は82部（82.8%）であった。

⑴ 幼児指導に対する自己評価の変化

模擬授業実施前後に行った幼児指導に対する意識についてのアンケート調査を、模擬授業実施前と実施後で質問項目ごとに比較した。その結果、「領域「表現」のねらい、内容を理解していますか」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を理解していますか」、「幼児に指導する自信がありますか」の質問項目において実施後の自己評価が有意に高い（$p<0.01$）結果を示した（**表1**）。また、「指導案作成は得意ですか」、「幼児に指導することが好きですか」においては有意傾向がみられた。

⑵ 各質問項目の自由記述

幼児指導に対する意識についてのアンケート調査の各質問項目から得た自由記述の意見数の割合を**表2**から**表11**に示した。

「領域「表現」のねらい、内容を理解していますか」の質問項目において、実施前は「授業で何度も確認しているから」、実施後は「授業を通して理解することができた」の意見が多くあった。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を理解していますか」の質問項目においては、実施前、実施後のどちらも「授業で学んだ」との意見が多くあり、「他の授業でも何度も触れている」との意見もあげられた。「幼児に指導する自信がありますか」の質問項目において、実施前は「幼児に対して指導する機会があまりないから」、実施後は「適切に指導できるか不安」との意見が多くあった。

⑶ 模擬授業の満足度

模擬授業実施後に行った質問項目で「模擬授業を経験して良かったと思いますか」に対する回答は、「そう思う」と回答した学生が43名（52.4%）、「まあまあ思う」と回答した学生が37名（45.1%）、「あまり思わない」と回答した学生が2名（2.4%）となり、「全く思わない」と回答した学生はいなかった（**図1**）。

⑷ 幼児指導に対する不安

模擬授業実施後に行った質問項目で「模擬授業を経験して、幼児指導に対してまだ不安要素は残っていますか」に対する回答は、「そう思う」と回答した学生が32名（39.0%）、「まあまあ思う」と回答した学生が38名（46.3%）、「あまり思わない」と回答した学生が8名（9.8%）となり、「全く思わない」と回答した学生が4名（4.9%）であった（**図2**）。

表1 模擬授業実施前後のアンケート結果

質問項目	実施前（n =82） mean ± SD	実施後（n =82） mean ± SD	t 値
1．領域「表現」のねらい、内容を理解していますか	2.98 ± 0.52	3.17 ± 0.52	−2.77**
2．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を理解していますか	2.90 ± 0.64	3.12 ± 0.62	−2.90**
3．指導案作成は得意ですか	2.00 ± 0.79	2.15 ± 0.71	−1.98 †
4．幼児に指導することが好きですか	2.65 ± 0.76	2.79 ± 0.72	−1.79 †
5．幼児に指導する自信がありますか	2.00 ± 0.69	2.27 ± 0.77	−4.13***
6．自分で動きを考えることが好きですか	2.49 ± 0.82	2.62 ± 0.83	−1.52
7．動きで表現することが好きですか	2.91 ± 0.82	2.89 ± 0.79	0.34
8．人前で表現することに抵抗はありますか	2.54 ± 0.93	2.38 ± 0.88	1.37
9．子どもに適した身体表現あそびを考えるのはたやすいですか	2.16 ± 0.58	2.10 ± 0.66	0.80
10．人前で自分の創った動きを披露するのは恥ずかしいですか	2.50 ± 0.97	2.46 ± 0.89	0.42

*** : $p < 0.001$，** : $p < 0.01$，† : $p < 0.1$

(5) 幼児指導に対する意欲

模擬授業実施後に行った質問項目で「今後、幼児指導についてもっと学んでいきたいと思いますか」に対する回答は、「そう思う」と回答した学生が40名（48.8%）、「まあまあ思う」と回答した学生が34名（41.5%）、「あまり思わない」と回答した学生が8名（9.8%）となり、「全く思わない」と回答した学生はいなかった（図3）。

4．考　察

(1) 学生の意識変化について

幼児指導に対する意識について、模擬授業実施前と実施後で比較した結果、「領域「表現」のねらい、内容の理解」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の理解」、「幼児に指導する自信」、「指導案作成」、「幼児指導に対する姿勢」など、指導現場に活かすための知識理解や指導への自信については実施後の自己評価が有意に高い値や有意傾向がみられた。それに比べ、動きを考案することや、表現することに関しては模擬授業実施前後で有意な意識の差は認められなかった。

本研究では、初回授業時に幼稚園教育要領領域「表現」の内容について理解させた上で模擬授業を実施したため、「領域「表現」のねらい、内容の理解」については、模擬授業実施前においても他の質問項目に比べ自己評価が高く、自由記述においても「授業で何度も確認している」、「身体表現を通して「表現」について考えたから」などがあげられていたことから、学生自身が幼稚園教育要領の内容について意識していることが窺える。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の理解」についても同様のことが言える。それらを踏まえた上で模擬授業を実践したことで、実施後には「領域「表現」のねらい、内容」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」に対する理解をさらに深めることに繋がったと推察される。教員養成校においては、

表２　問項目１における自由記述

１．領域「表現」のねらい、内容を理解していますか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
授業で何度も確認している	35.0	授業を通して理解することができた	48.8
身体表現を通して「表現」について考えたから	25.0	授業を通して身体表現に関しては理解できた	22.0
ある程度は理解している	15.0	初回授業で学んだ	9.8
「表現」の内容を意識して授業に取り組んでいる	6.7	忘れてしまった	7.3
あまり覚えていない	5.0	ある程度は理解している	4.9
知っているが深く理解していない	5.0	様々な授業で学んできた	4.9
授業を毎回積極的に受けているから	3.3	資料を見れば思い出す	2.4
「表現」のことを考えて授業を受けれていない	3.3		
資料を見れば思い出す	1.7		

表３　質問項目２における自由記述

２．幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）を理解していますか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
授業で学んだ	31.0	授業で学んだ	35.9
理解しているが全部は覚えていない	26.2	他の授業でも何度も触れている	25.6
覚えていない	19.0	理解しているが全部は覚えていない	25.6
他の授業でも何度も触れている	16.7	覚えていない	5.1
大事な幼児期に育てたい大切なことだから	4.8	大事な幼児期に育てたい大切なことだから	5.1
そこまで意識していなかった	2.4	よく聞くので耳に残る	2.6

表４　質問項目３における自由記述

３．指導案作成は得意ですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
文章を書くことが苦手	23.8	指導内容を考えることが難しい	23.4
子どもの動きが予測できず難しい	11.1	文章を書くことが苦手	14.9
年齢や発達に合わせることが難しい	9.5	子どもの動きが予測できず難しい	14.9
指導内容を考えることが難しい	9.5	作成に時間がかかる	14.9
指導案作成に対して苦手意識がある	7.9	他の授業や実習で書く機会が多く慣れた	8.5
正解が分からないから不安	6.3	考えて作成することが好き	8.5
指導案作成が好きではない	6.3	計画を立てることが苦手	6.4
流れや繋がりを考えることが難しい	4.8	正解が分からないから不安	4.3
作成に時間がかかる	4.8	子どもの様子を想像しながら書くことが楽しい	2.1
子どもの様子を想像しながら書くことが楽しい	4.8	得意ではないがやればできる	2.1
他の授業や実習で書く機会が多く慣れた	4.8		
子どもの姿やねらいがうまく書けないから	3.2		
書き方を学んだから	3.2		

表５　質問項目４における自由記述

４．幼児に指導することが好きですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
子どもに関わることが好き	19.7	子どもに関わることが好き	25.0
子どもと関わることは好きだけど指導するのは難しい	19.7	指導が楽しい	12.5
子どもたちが楽しそうにしてくれるところを見ると嬉しい	16.4	緊張するし難しい	10.0
子どもの成長が見られると嬉しい	9.8	この授業で好きになった	7.5
幼児に指導をする経験がほとんどない	8.2	子どもを動かすのが苦手	7.5
指導が楽しい	8.2	分かりやすい言葉がけができない	7.5
あまり好きではない	4.9	子どもたちが楽しそうにしてくれるところを見ると嬉しい	7.5
緊張するし難しい	3.3	あまり好きではない	5.0
指導することに対して不安がある	3.3	わかりやすく指導できるか不安	5.0
幼児の反応を見て新しいアイディアを得られる	3.3	子どもと関わることは好きだけど指導するのは難しい	5.0
指導についてまだ理解しきれていない	1.6	指導についてまだ理解しきれていない	2.5
なかなか計画通りにいかない	1.6	幼児に指導をする経験がほとんどない	2.5
		子どもの成長が見られると嬉しい	2.5

表６　質問項目５における自由記述

５．幼児に指導する自信がありますか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
幼児に対して指導する機会があまりないから	25.0	適切に指導できるか不安	36.1
適切に指導できるか不安	19.6	内容を理解できるように伝えられる自信がない	11.1
内容を理解できるように伝えられる自信がない	16.1	今回の授業で少し自信に繋がった	11.1
指導する自信がない	16.1	教えることが苦手	8.3
教えることが苦手	7.1	臨機応変に対応するのが難しい	8.3
子どもたちの動きを予想するのが難しい	3.6	人前に立つことが苦手	8.3
授業や実習を通して様々なことを身につけてきた	3.6	幼児に対して指導する機会があまりないから	8.3
楽しく指導することはできると思う	1.8	子どもは何でも受け入れてくれるから	2.8
ダンスをしていたので指導する側には慣れている	1.8	子どもにわかりやすく教えられると思う	2.8
恥ずかしく、緊張する	1.8	子どもに寄り添うように意識する	2.8
子どもにわかりやすく教えられると思う	1.8		
指導する知識が少ないのでもっと学びたい	1.8		

表７　質問項目６における自由記述

６．自分で動きを考えることが好きですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
アイディアが浮かばない	27.6	アイディアが浮かばない	26.8
身体を使って表現することが好き	17.2	動きを考えることが楽しい	19.5
動きを考えることが難しい	13.8	動くことが好き	9.8
動きを考えることが楽しい	12.1	動きを考えることが難しい	9.8
みんなで案を出し合うことが楽しい	8.6	ダンスをしていたため慣れている	7.3
動くことが好き	5.2	身体を使って表現することが好き	7.3
ダンスをしていたため慣れている	5.2	運動が苦手	4.9
動きで自分を表現することが苦手	3.4	動きで自分を表現することが苦手	4.9
達成感があるから好き	1.7	みんなで案を出し合うことが楽しい	2.4
いろいろな動きを考えることで自分の引き出しが増える	1.7	子どもたちが楽しめるか不安	2.4
考えた動きを喜んだり、笑ってくれたら嬉しい	1.7	自信がない	2.4
運動が苦手	1.7	真似の方が良い	2.4

表８　質問項目７における自由記述

７．動きで表現することが好きですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
体を動かすことが好き	42.9	動きで表現することが楽しい	31.7
ダンスをしていた	16.3	体を動かすことが好き	14.6
動きで表現することは難しい	12.2	表現することがあまり得意ではない	14.6
表現することが好きで楽しい	8.2	ダンスをしていた	9.8
表現することがあまり得意ではない	8.2	ダンスは苦手だが、動くのは好き	4.9
恥ずかしい	4.1	恥ずかしい	4.9
言葉で表現するほうが好き	2.0	動きで表現することは難しい	4.9
運動が苦手	2.0	この授業を通して好きになった	4.9
動きで表現する機会がない	2.0	動きを創ることが苦手	4.9
動きを創ることが苦手	2.0	動きで表現する機会がない	2.4
		言葉で表現することよりは得意	2.4

表９　質問項目８における自由記述

８．人前で表現することに抵抗はありますか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
恥ずかしい	26.1	恥ずかしい	24.4
抵抗はあまりない	19.6	授業を通して慣れた	22.0
人前に立つことが苦手	19.6	抵抗はあまりない	14.6
ダンスをやっているから慣れている	10.9	人前に立つことが苦手	14.6
この学科に入って抵抗がなくなった	4.3	ダンスをやっているから慣れている	9.8
人前でもあまり緊張しない	4.3	表現する内容による	7.3
少し恥ずかしいけどやると楽しい	4.3	表現が好き	2.4
子どもの前なら平気	4.3	目立つことが好き	2.4
授業を通して慣れた	2.2	人前でも普段通りでやれる	2.4
知っている人の前であればできる	2.2		
表現する内容による	2.2		

表 10　質問項目９における自由記述

９．子どもに適した身体表現あそびを考えるのはたやすいですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
年齢に合ったものを考えることが難しい	33.9	年齢に合ったものを考えることが難しい	40.5
難しい	23.2	難しい	32.4
子どもの年齢ごとでのできる動きを理解しきれていない	10.7	個人差がある中で考えていくことが難しい	5.4
アイディアを出すのが苦手	8.9	以前より思いつくようになった	5.4
考えることに時間がかかる	7.1	どのような動きをしたら楽しめるのかを考えることが難しい	5.4
個人差がある中で考えていくことが難しい	7.1	何をしたらいいかわからない	2.7
どのような動きをしたら楽しめるのかを考えることが難しい	3.6	きちんと考えたいから簡単ではない	2.7
大人が出来る動きと子どものできる動きは違う	1.8	もっと勉強が必要	2.7
難しいけれど楽しい	1.8	難しいけれど楽しい	2.7
授業で学んだため	1.8		

表 11　質問項目 10 における自由記述

10. 人前で自分の創った動きを披露するのは恥ずかしいですか

〈実施前〉	%	〈実施後〉	%
緊張して恥ずかしい	16.4	緊張して恥ずかしい	36.1
人前で表現することが楽しい	13.1	特に恥ずかしくない	16.7
特に恥ずかしくない	11.5	人前に出ることが苦手	13.9
自信がない	9.8	授業を通して慣れた	11.1
人前に出ることが苦手	8.2	自信がない	8.3
ダンスをしていたため慣れている	6.6	人前で表現することが楽しい	2.8
自信をもっている	6.6	自信をもっている	2.8
授業を通して慣れた	6.6	みんな同じことをすれば平気	2.8
自分の創った動きを披露したい	6.6	知人の前であればできる	2.8
どう思われているのか周りの目が気になる	4.9	動くことが好きだから	2.8
どのような反応がくるか楽しみ	3.3		
知人の前であればできる	3.3		
顔が隠れている状態ならできる	1.6		
ダンスが苦手	1.6		

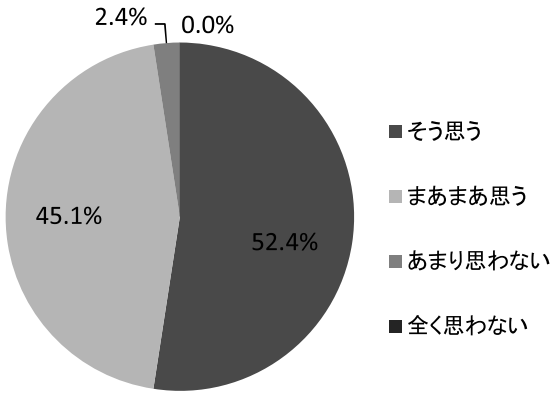

図１　模擬授業を経験して良かったと思うか

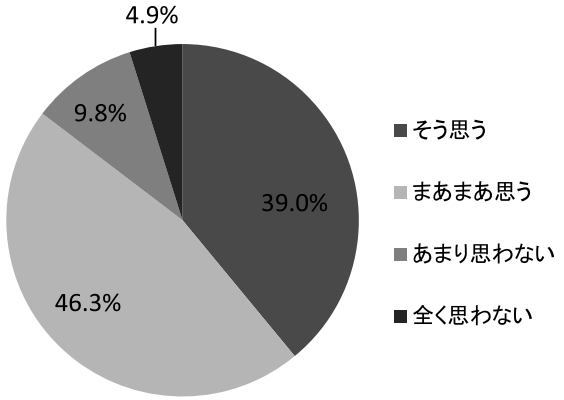

図２　幼児指導に対する不安は残っているか

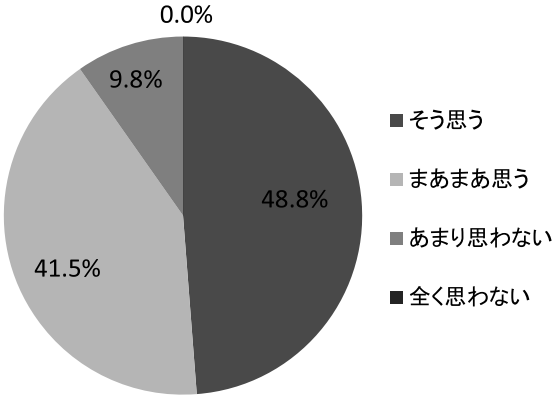

図３　幼児指導についてもっと学びたいか

学生の保育実践の基盤となる専門知識の獲得について考慮していく必要があること（遠藤，2006）や、身体表現の実践で取り組むべき課題が明確化されていないため、保育者として身につけるべき事項を身体表現の領域に関して明確化する必要性があげられている（新山ら，2014）。これらのことからも、指導案作成前には幼稚園教育要領の内容を理解させておくことが重要であり、理解させることで模擬授業の質をさらに向上させる可能性がある。幼稚園教育要領の内容が改訂されてきているように、幼児教育の方向性も徐々に変化していく。その時代に求められている幼児指導に関する内容を理解することは、

指導実践の基盤とも言える。そのためにも、幼稚園教育要領について理解させることは学生に身につけさせるべき事項の１つであると考えられる。また、「領域「表現」のねらい、内容の理解」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）の理解」についての自由記述に、「他の授業でも何度も触れている」という内容が書かれていたことから、身体表現の授業だけでなく音楽表現や造形表現など、他の「表現」に関わる授業との連携も重要であると考えられる。先行研究においても、総合的な表現による保育が領域「表現」の目標の達成に繋がる（松下ら，2018）ことが明らかにされていることからも、他の授業との連携内容の確立も今後の幼稚園教員養成校の課題と言える。

動きの考案や表現することへの意識に関しては、模擬授業による自己評価の変化はみられなかった。これらの自由記述をみると、ダンス経験のある学生や運動が好きな学生は、表現することや動きを考えることに慣れているため自己評価は高いが、ダンスが苦手な学生や人前に出ることに対して抵抗のある学生の自己評価は低く、その苦手意識が実施前後においてほとんど変化がみられなかったことからも、表現に対する意識を15回の授業で克服することは難しいと推察される。しかし、「授業を通して慣れた」という意見もあることから、少しでも多くの経験を積むことで、表現に対する意識も変わってくる可能性があり、先行研究において、様々な身体表現に慣れ親しみ、気負わず楽しめる授業環境をつくることが急務である（弓削田，2009）と言われていることからも、身体表現の授業環境作りも検討すべき要因と言える。身体表現は楽しい分野であり、幼児期には必要だと考える学生が多いが、同時に「難しい」という印象も多く、苦手意識を抱いてしまいがちな傾向にある（弓削田，2009）。しかし、多胡（2013）によると、子どもたちは身体表現あそびに基本的に喜んで参加しており、保育者側があまり構えて行わず、子どもたちと身体表現あそびを楽しむ気持ちが何よりも大切であることが述べられており、身体表現を指導する保育者が躊躇していると、子どもにそれが伝わる可能性もあることから、表現に対する抵抗感を少しでも取り除いていけるような対策も今後検討していかなければならない。さらに、表現運動や身体表現あそびの考案に関して、「アイディアが浮かばない」、「動きを考えることが難しい」などの意見もあったが、保育に携わる者が幼児期に必要な「表現」活動に対する理解を深めるためには、自らが様々な表現体験を重ねることや、多様な活動事例を探索し積極的に自らの実践へ取り入れていくことが必要とされている（永井，2011）。また、保育者として基礎的技能を獲得していることは自信を持ちながらの指導に繋がることが報告されている（遠藤，2006）ことからも、自身が考えたあそびの内容だけではなく、学生同士の発表の中からもアイディアを得ることが重要となってくる。他の学生の模擬授業も幼児役として経験を重ねることが重要であり、それが幼児指導への自信に繋がっていく可能性が考えられる。そのため、模擬授業実施前に幼児役として模擬授業に参加することの意義についても幼稚園教員養成課程の学生に指導していくことが求められる。

本研究は学生の自己評価からの理解度を判断した為、それが幼稚園教育要領の本質をとらえた理解に繋がっているかはまだ定かではない。しかし、幼稚園教育要領領域「表現」の内容を理解させた授業を実施したことで、模擬授業後の自己評価が上がった可能性が考えられ、幼稚園教育要領を理解させた上で模擬授業を実施することの重要性が示唆された。

⑵　模擬授業の効果について

幼稚園教員養成課程の学生において、学外実習など実践現場で指導を行う前に、学生を幼児に見立てて模擬授業（指導実践）を実施し、事前の段階的な指導実践を行うことは必要不可欠である。模擬授業実践後に行ったアンケート調査で「模擬授業を経験して良かったと思いますか」の質問項目において、「そう思う」と「まあまあ思う」の合計は97.5%となり、模擬授業を経験したほとんどの学生の満足度が高かった。しかし、「模擬授業を経験して、幼児指導に対してまだ不安要素は残っていますか」の質問項目に対し、85.3%の学生は不安が残っていると回答し、模擬授業を経験して良かったと思っているものの、幼児指導に対する不安要素はかなりの学生が抱えていることが分かる。幼児に指導する自信についても質問項目５の自由記述（**表６**）から、模擬

授業実施前は「幼児に対して指導する機会があまりないから」の意見が一番多かったが、実施後は「適切に指導できるか不安」の意見が一番多くなり、模擬授業を経験したことで改善点もみつかり、自身が適切な指導ができるか不安に感じる学生が多くなったことが推察される。先行研究においても、模擬授業を実践して、自信をもって指導できるレベルには到達できていないことが明らかとされており、有意義に学習はできたと感じるものの、十分に指導力が身につき、子どもの運動・表現活動に自信が持てる程には至らなかったことが報告されている（佐藤，2018）。学生たちの自信を改善するためには、模擬授業と反省・改善のための学習を何度か繰り返し経験させることが必要である。さらに、模擬授業のような実践プログラムは、どのような力が不足しているのか、またどのように補うのかなど反省的思考を促す効果があるため（梅垣ら，2006）、学生の自己評価と教員の評価に相違が無いよう、教員から学生へフィードバックをすることが重要となり（高橋ら，2015）、適切な指導ができる教員を育成するためにも、学生自身が自分の指導レベルを正しく把握することが重要である。

また、「今後、幼児指導についてもっと学んでいきたいと思いますか」の質問項目に対し、90.3% の学生は幼児指導を学んでいきたいと回答していた。

「自ら学び、生きる力」を身につける子どもを育てることが重視されている現在、その資質を自らが具えた教員を育成することこそが教員養成課程における重要な課題であると言われている（佐藤，2009）。このことから、学生の学習意欲を高めることも重要であり、限られた模擬授業の実施回数の中で、指導者役、幼児役を経験しながら、より多くの学びを学生に与え、自ら学ぶ力を付けていくことができるように学生を養成していけるかが教員養成校には重要な課題となってくる。

5．まとめ

幼稚園教員免許取得希望者を対象に、模擬授業実施前に幼稚園教育要領領域「表現」の内容を学生に理解させ、模擬授業実施前と実施後の自己評価から幼児指導に対する意識の差を比較検討した。その結果、「領域「表現」のねらい、内容の理解」、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10 の姿）の理解」、「指導への自信」について実施後の自己評価が有意に高い値を示した。このことから、模擬授業実施前に幼稚園教育要領の内容理解を深めることの重要性が明らかとなった。

今後の課題として、幼児役としての模擬授業参加の意義を学生に指導することで、更なる模擬授業の効果が期待できる可能性が考えられる。また、身体表現が苦手な学生に対して、苦手意識を少しでも軽減できるような授業内容の改善および授業環境作りをしていく必要がある。さらに、音楽表現や造形表現など、他の「表現」に関わる授業との連携内容の確立が重要となってくる可能性がある。

参考文献

阿部アサミ（2016）「保育者養成校における実習に関する研究−模擬保育の意義に着目して−」，『白鷗大学教育学部論集』，Vol.10,pp.263−276.

遠藤晶（2006）「幼児の身体表現の指導に関する保育者の意識について−身体表現の指導に関する困難さについてのアンケートの検討を通して−」，『武庫川女子大紀要（人文・社会科学）』，Vol.54,pp.91−99.

菅家沙由梨・浅井泰詞・雪吹誠（2018）「幼稚園教員養成課程の学生における身体表現指導の理解度について」，『目白大学高等教育研究』，Vol. 24, pp.41−48.

菅家沙由梨・西田希・雪吹誠（2019）「幼稚園教員養成課程「身体表現」の模擬授業が幼稚園教育要領の理解度に与える影響」，『目白大学高等教育研究』，Vol. 25, pp.21−30.

清葉子（2013）「模擬授業演習（幼稚園）の立案とその教育効果」，『椙山女学園大学教育学部紀要』，Vol.6,pp.335−353.

松下茉莉香・中村礼香・小松恵理子（2018）「子どもの表現活動の効果的指導方法に関する研究−身体表現・音楽表現・造形表現を考慮した総合的表現指導の観点から−」，『鹿児島女子短期大学紀要』，Vol.54,pp.81−90.

松山由美子（2010）「保育者養成における「保育実践力」育成のための学びの場−模擬保育と学外実習に関する質問紙調査の結果からの考察−」，『四

天王寺大学紀要』，Vol.49,pp.197-212.
文部科学省（2008）「幼稚園教育要領」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/（2019/10/8）
文部科学省(2017)「教職課程コアカリキュラム(案)」
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/002/siryo/__icsFiles/afieldfile/2017/07/20/1387656_08.pdf（2019/10/8）
永井夕起子（2011）「幼児の表現活動に関する事例報告」，『奈良女子大学スポーツ科学研究』，Vol. 13, pp. 57-62.
新山順子・髙橋敏之（2014）「保育者養成における身体表現教育に関する研究の動向と課題」，『兵庫教育大学　教育実践学論集』，Vol. 15, pp. 79-87.
佐藤仁美（2009）「小学校教員養成課程における授業づくりの学び-模擬授業を通して-」，『表現文化研究』，Vol. 8, pp. 99-112.
佐藤由美(2018)「幼小教職必修「身体表現(体育)A・B」の授業内容の検討と学生の到達度評価，実践的指導力向上からみた授業効果の検証」，『大阪樟蔭女子大学研究紀要』，Vol. 8, pp. 75-86.
多胡綾花（2013）「「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について」，『湘北紀要』，Vol.34,pp.51-73.
高橋人美・佐々木晴美（2015）「遊びに関する一考察その3-集団あそび模擬授業を通しての学生自己評価と教員評価-」，『聖徳大学幼児教育専門学校研究紀要』，Vol. 7, pp. 23-29.
梅垣明美・晴山紫恵子（2006）「体育における保育者養成プログラムの検討」，『浅井学園大学短期大学部研究紀要』，Vol.44,pp.55-64.
上月智晴（2019）「保育内容総論における模擬保育と学生の学び」，『京都女子大学教職支援センター研究紀要』，Vol.1,pp.15-27.
弓削田綾乃（2009）「幼児の身体表現に関する学生の意識と実践についての一考察」，『浦和論叢』，Vol.41,pp.135-146.

（受付日：2019年10月31日、受理日2020年1月20日）